## The Kumamoto Tragedy

The recent tragedy in Kumamoto, where a child was bitten by a neighbour's dog and subsequently died, highlights a much misunderstood issue. Most cases of biting go unreported, the owners choosing to have the animal destroyed out of obligation. The dog is made the scapegoat with the owners rarely blaming themselves for the dog's misbehaviour.

After reviewing several cases reported in the newspapers, a trend emerges. Invariably the dogs in question have been tied, as the law instructs. Tying any animal leads to stress especially if, as is common in Japan, it is tied so short that it can hardly move, or if the location is such that the dog cannot see but only hear. Imagine a human tied like a prisoner all day and we soon understand why a dog would become stressed. Frustrated and anxious, the dog starts to chew things, to bark endlessly, and it slowly becomes aggressive.

Children often tease dogs which are tied knowing that they can't get free. A teased dog naturally becomes agitated. Parents seldom scold children for teasing dogs or any other animals. They may warn them that they might bite, but they don't teach them why.

Territory is something a dog guards. When a stranger approaches a dog's territory, especially when the owner isn't there, the dog feels protective. Many biting cases involve people walking into a dog's territory suddenly without letting the dog get used to them; using a friendly

voice or letting the dog sniff them for example. Knowing when and how to approach a dog is important. Dogs shouldn't be touched when they are eating or sleeping nor when they have puppies. A mother dog is very defensive about her puppies and resents strangers touching them, especially people picking them up.

The dog in Kumamoto had never bitten anyone before. The child playing near the dog probably didn't realize he was teasing it. A needless tragedy could have been avoided if the parents had known what to teach their child about animals. We should consider dogs as family members, allowing them to greet visitors and to socialize with people. In a happy environment with plenty of love and exercise, no dog even thinks about biting.







## 動物との接し方 子供に教えよう

隣家の飼犬に噛まれて死んだ熊本 の子供の話は、典型的な「誤解」の 例でしょう。 このようなケースはた いていの場合、報じられなかったり、 あるいは揉み消されたりします。犬 が自分の家族以外の人を噛んだ場合、 飼い主は恥じ入ってその犬を保健所 に連れていき、お詫びのしるしとし て、そこで処分してもらうのが常で す。犬は不当にも「いけにえ」にさ れます。かわいそうな犠牲者と呼ぶ ほかないでしょう。そしてこの飼い 主は、犬の行動について自分自身を 責めることはめったにありません。

新聞で報じられた例を振り返って みると、一つの傾向がみてとれます。 問題となる犬はいつも法律の命ずる ままに鎖やひもでつながれています。 どんな動物でも一旦つながれると強

いストレスを感じるようになります。 自由に動けないほど短くつながれた 場合はなおさらストレスが強まりま す。そしてまた何も見えず、ただ音 だけが聞こえる一といったような場 所に置かれたとき、その動物は狂気 に追い込まれます。もし我々人間が 囚人のように一日中狭い所につなが れ、押し込められた場合を考えれば、 犬が同じような状態に陥ったとき、 きわめて強いストレスを感じるだろ うことは容易に理解できるでしょう。 ストレスが高まり退屈しだしたとき、 動物は物を噛むようになります。さ らに始終ほえるようにもなり、徐々 にではあるが攻撃的になります。

子供は自由になれない犬をよくい じめるものです。いじめられた犬は ごく自然に攻撃的になります。とこ ろが親はめったにその子をしかりま せん。親は子供に「そんなことをす ると噛まれるよ」と警告はしますが、 犬が何故噛むようになるかは決して

赦えません。

「自分の場所」は犬にとって、自 分が守るべききわめて重要なもので す。見知らぬ人がこの場所に近づい たとき、とりわけ飼い主がそこに居 合わせないとき、犬は本能的に自分 を守ろうとします。犬が人を噛んだ ケースをみると、噛まれた人は突然 何の前ぶれもなく、その場所に踏み 込んだ一というのがほとんどのよう です。つまり前もってやさしく声を かけながら近づくとか、犬にあらか じめ嗅がせるとか、そういった手順 を踏まずにいきなり犬の"縄張り" に入り込んだ一という場合が多いの です。犬に近づくタイミングとその 方法を知ることは大切なことです。 犬は食べているとき、寝ているとき、 子犬と一緒にいるとき、人に近づい てほしくないのです。母犬が見知ら ぬ人から子犬を守ろうとするのは当 然ではありませんか。母犬は見知ら ぬ人が子犬に近づくのをとてもいや

がります。とりわけ子供が子犬をお もちゃ替わりに取り上げるときは一。

熊本の場合、その犬はこれまでに だれも噛んだことはありませんでし た。犬のそばで風船をもてあそんで いたその子は、多分そのことが犬を イライラされていたことに気付かな かったのでしょう。犬が風船を取り 込み、子供がその風船を取り返そう としたとき、犬が子供を噛んだので はないでしょうか。親が子供に「犬 はどのように遊べばいいか」を教え ていたなら、この無意味な悲劇は避 けられたでしょう。

私たちは犬を家族の一員と考える べきです。家を訪れた人をもてなす とき、犬をその一貫に加えるべきで す。つまり「家族ぐるみ」という言 葉に犬も加えるべきなのです。充分 な愛情ときちんとしたしつけのある 家に飼われている犬は、人を噛もう などとは夢にも思わないものです。

アーク (アニマル・リフュージ・カンサイ) 〒563-01 大阪府豊能郡能勢町野間大原595 電話(0727)37-0712 FAX 37-1645